

平成27年度 防衛大学校入校式  
防衛副大臣訓示

本日ここに、防衛大学校本科及び研究科の入校式が挙行されるにあたり、防衛副大臣として一言申し上げます。

新入生諸君、入校おめでとう。

また、本日ご参列いただきました新入生の御家族の皆様におかれましても、この良き日を迎えられたことに心からお祝いを申し上げます。

本科入校生諸君は、これから4年間、ここ小原台において学業や各種訓練、学生舎生活などを送り、将来幹部自衛官となるべき資質を磨くこととなります。この間、戸惑いや不安、数多くの困難にも直面することと思いますが、本校の國分学校長をはじめとする教職員、学生生活を共にする諸先輩や、本日から仲間になる入校生同期の存在が必ずや心の支えになると思います。心を磨き、友情を深め、自分の殻を打ち破り、その先の無限の可能性に向け、高き志をもって学業や訓練などの学生生活に励んでください。

研究科入校生諸君。諸君がこれから学ぼうとしている科学技術や安全保障分野は、時代とともに大きく変化することが予想されるため、その変化に応じて的確に対応していくことが必要です。諸君には本校においてそれぞれの分野における高度な専門的知識を修得し、修了後は、それぞれの持ち場においてその修得した専門的知識を十分に発揮されることを期待をしております。

留学生として来られた皆さん。この防衛大学校に留学されたことを、心から歓迎をします。

生まれ育った母国を離れ、日本の習慣や言葉など、これから戸惑うことも多々あると思いますが、どうか困難を克服し、立派な成果を修めていただきたいと思います。

そして、仲間とともに歩む学生生活を通じ、終生変わらぬ友情を育み、母国と我が国との友好親善関係をより一層深化させるための架け橋となつていただくことを切望いたします。

入校生諸君もご承知のとおり、今年には戦後70年の年です。戦後70年間、日本は平和国家として歩んできましたが、70年の時を経た現在、我が国を取り巻く安全保障環境は一層厳しいものとなっています。

我が国を含むアジア太平洋地域では、領土や主権、海洋における経済権益等を巡るグレーゾーン事態が長期化する傾向が生じており、これらがより重大な事態に転じる可能性が懸念されております。

特に、我が国周辺では、中国が、東シナ海において、公船による領海侵入等を繰り返しているほか、火器管制レーダーの照射、独自の主張に基づく東シナ海防空識別区の設定、戦闘機による自衛隊機への異常な接近といった、不測の事態を招きかねない危険な行為を繰り返しております。

また、北朝鮮は、弾道ミサイルの発射等の軍事活動を続けており、核兵器開発を継続する姿勢を崩していません。

このように予断を許さない安全保障環境の中、諸君の先輩達は、今この瞬間も我が国の防衛任務を整齊と遂行しております。

また、国際社会の平和と安定のため、カンボジア、ゴラン高原、東ティモール、南スーダンなどにおけるPKO活動や、ソマリア沖・アデン湾における海賊対処などで多くの困難な任務を完遂してきた諸先輩もいます。

国内においては、東日本大震災や御嶽山の噴火等の災害派遣に際して、昼夜を問わず救助活動にあたるなど、多くの困難な任務を完遂してきた諸先輩もいます。

諸君には、将来の幹部自衛官として、このような自衛隊の任務遂行に貢献できるように、学生生活において広い視野、科学的思考力、豊かな人間性を養ってもらいたい。そして何より本日ここで一緒に入校する同期の絆を大切に、これから学生生活を送っていただきたいと願っています。

御家族の皆様、入校生が逞しく自立し、輝く人材へと成長を遂げられるよう、我々も最大限努力する所存でありますので、これからも大切な入校生諸君を暖かく見守っていただくようお願い申し上げます。

最後になりますが、日頃から防衛省・自衛隊そして防衛大学校に対し、多大なる御理解・御協力を賜っております御来賓の皆様方、また、地域の方々に深く感謝申し上げますとともに、國分学校長をはじめとする教職員におかれましても、情熱と愛情に溢れた教育にご尽力されることを希望いたしまして、私の訓示といたします。

平成27年4月5日  
防衛副大臣 左藤 章

おめでとう！